

古註はあまうめく中そくあくるをうけくはるるとして其形
書くはあまうめくは依て杏を結ひてとてうとれりるに重
なる鷹の鈴はとある也塙本中は何句あると云此方より
ちあまうめくの字を越てゆく犬のひとありなるやうくむ
古註は鈴香不知可尋也といふはうめくあや其ハ伊勢國の
名所あり唯ちうめく鈴とあるむ為のとあり二三ノ句ハ犬は
為子の鈴を嗅^{カギ}く初を越てといひ此犬の多はそく何とを
嗅^{カギ}くぬをぬとる也。鷹詞はあまうめくはれかこくちづを
事やそく犬の嗅あてむ初色しひとあるのそくとあるは
又越るとあるむやも笑とあるせり